

東日本ユニオン

よこはま

JR 東日本労働組合
横浜地方本部
発行者/小清水和彦

「JR 東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」提案を受ける！

11月19日横浜支社より「JR 東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」提案を受けました。グループ経営ビジョン「勇翔 2034」の実現に向け、「融合と連携」をさらに加速するために組織と業務の再編を行うものです。

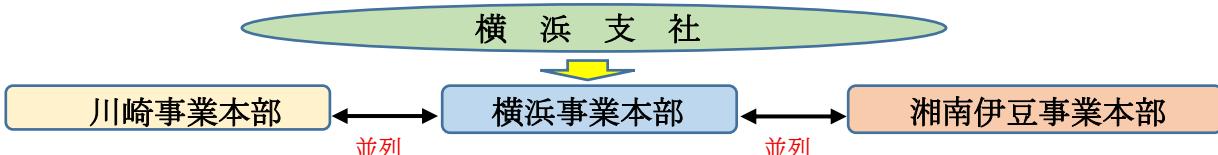
提案内容は以下の通りです。

1. 組織の見直しに伴う業務の再編について

これまで横浜支社が所掌していた現場機関と企画部門の業務は、各事業本部にて所掌する。

新設エリア機関	融合する現場第一線の職場	出面数
川崎事業本部	川崎統括センター	150→142 △8
横浜事業本部	横浜統括センター、町田統括センター、桜木町統括センター 横浜保線設備技術センター、横浜土木設備技術センター 横浜建築設備技術センター、横浜機械設備技術センター 横浜電力設備技術センター、横浜信号通信設備技術センター 首都圏本部鎌倉車両センター 首都圏本部鎌倉車両センター中原支所	985→961 △24
湘南伊豆事業本部	湘南・相模統括センター、小田原・伊豆統括センター 首都圏本部国府津車両センター	280→265 △15

2. 体制 横浜支社では3つの事業本部に再編。機能に違いはあれど事業本部相互間は並列の関係



3. 実施期日 2026年7月1日

4. その他 実施に向けて必要な準備を行っていく。

組合	提案された特徴的な内容	会社
・各事業本部の規模(人数)はどのくらいなのか。	・川崎で400名弱。小田原で600名弱。横浜は設備職場が入るため1800名弱くらいである。	
・ダイヤ改正や各施策に伴う出面数はどのように示されるのか。	・現行の統括センター単位と事業本部単位の2段で示していく。	
・支社で持っている仕事を各事業本部でも担うとなると、仕事量が増えるのではないのか。	・業務量に差はあるかと思うが、基本的には各事業本部で担えるだけの体制は作っていく。	
・各事業本部の拠点はどこになるのか。	・拠点となる駅は横浜駅・川崎駅・小田原駅と考えている。また川崎事業本部・湘南伊豆事業本部のオフィスとなる場所については検討中である。	

「組織の見直し」が働きやすい労働環境となるのか。

東日本ユニオンと共に問題点を解決していこう！